



## 院長の金重です。

今年 2020 年は新型コロナウイルスの地球規模のパンデミックで世界中が震撼し危機感におおわれました。今現在もウイルス感染症の終息は見通せないままに、不安の中で3密を避けながら日々の生活を送っています。

今回は夏号と次回秋号の2回にわたり『新型コロナはいつ終わるのか』と題してお話しましょう。

### 1. 新型コロナウイルスの感染症に完全収束する日が来るのか

ウイルス感染症の収束については、短期的な収束と長期的な収束とに分けて考える必要があります。短期的な収束とはある地域に限定して、あるいはある一定期間にわたり感染者がいなくなるという状態が考えられます。この状況は今の日本の地域をみても新規患者さんの発症が0のままの県が多くみられることから分かります。しかしこの状況も今後の第2波、第3波の流行時には新たな感染にさらされるという観点からは、あくまでも短期的な収束と考えられます。長期的な収束には少なくとも1年や2年以上かかると考えられます。



### 2. 厄介な新型コロナウイルス

この新型コロナウイルスの一番厄介な点は、潜伏期が1週間から2週間と長く、その間に無症状の人からも感染するという点があります。その結果として感染力が桁違いに高くなります。また気道感染するウイルスですので、インフルエンザのようにワクチンだけでは十分な効果や抗体産生が得られない可能性があります。また産生された抗体価も日を追うごとに低下するとの報告もあり、このウイルスとはインフルエンザと同様に人類と共存することになるかも知れません。

### 3. 日本における新型コロナへの対策とその効果

このウイルス感染症による死亡者数が欧米諸国に比較して極端に少ないことが議論されています。確かに日本の総人口や人口密度を考えると欧米諸国の人口10万人当たりの死亡者数が30から50に対して、日本は0.3と極端に低い死亡者数に抑えられています。この要因に挙げられるのは、日本人の冬季から花粉症シーズンにかけてのマスク装着率の高さ、日本人の清潔な生活様式、たとえば土足で家には入らない、握手やハグではなくお辞儀の文化などが挙げられています。また日本人の素直な国民性ということもあるかも知れません。しかし私は以下の二点が幸いしたと考えています。一つは今年2月初旬のダイヤモンドプリンセス号内での新型コロナウイルスの蔓延で、諸外国



に比較して日本ではこのウイルス感染症に対する恐怖が実感されて、早くから警戒心が増していた点が挙げられます。そして2点目には、日本特有の地域に根ざした保健所組織の存在です。今回は保健所が中心になり、いわゆるクラスターを追跡し初期の段階での封じ込めに成功しました。今後はPCR検査や抗原検査の拡充を図りながら、さらなる予防措置や治療法の開発を進めることとなります。人類の英知が試される治療法の開発については、次回の秋号でお話することにしましょう。

### <新型コロナウイルスの検査について> 検査科 深澤綾子

新型コロナウイルス感染症の検査にはいくつかの検査方法があります。代表的なものがPCR検査、抗原検査、抗体検査です。この3つの検査の特徴や目的を簡単にまとめました。

検査の種類	PCR検査	抗原検査(簡易キット)	抗体検査(簡易キット)
目的	今感染しているか	今感染しているか	過去に感染したか
採る部位	鼻や喉の粘液・唾液	鼻や喉の粘液	血液
検出するもの	ウイルスの遺伝子	ウイルスのたんぱく質	ウイルスに対する抗体
精度	ウイルスの量が少なくても検出可能 感度 70%程度	ウイルスの量が一定以上あれば検出可能	メーカーによってばらつきがある
検査にかかる時間	検査機関で4~6時間	医療現場で約30分	医療現場で15~30分



緊急事態宣言は解除されましたが、首都圏では連日新たな感染者が報告されており、油断できない日々が続いています。ワクチンの開発や治療法の確立が出来ていない現状だと、第2波へ備える必要があります。その為には3密を避ける、マスクの着用や手洗いなどこれまでと同じように感染対策を続けることが大切です。

### 感染を避けるために

◎マスクの着用



◎手洗い・うがい



◎アルコール消毒



◎咳エチケット

